

成長と変革を目指すクラウド投資は、コスト削減を目的としたクラウド投資よりも 3 倍の価値：インフォシスリサーチより

- 67%のクラウド企業が今年クラウド支出を増加させたが、驚くべきことに 80%の企業がさらにクラウド支出を増加させると予測している
- 企業が実際にクラウドに投資した額は、契約した費用の 47%のみ

インド(ベンガルール) – 2023 年 9 月 7 日: 次世代デジタルサービスとコンサルティングのグローバルリーダーである[インフォシス](#) (NSE, BSE, NYSE: INFY) は本日、**Infosys Cloud Radar 2023** を発表しました。この年次調査の重要な発見の 1 つは、成長と変革を目指すクラウドは、コスト削減を目的としたクラウドよりも、企業にとって 3 倍の価値があることを示しています。

この調査では、クラウド活用の目的がストレージやコスト削減から、最新技術や最新機能へのアクセス、新たな収益源の獲得、現行システムの置き換えや更新へとシフトしていることが包括的に示されています。また、企業はクラウドへの投資を継続するものの、実際に使われているのは契約した費用の半分以下であることも分かっています。これは短期的に解決できる問題ではなく、クラウド契約を履行しない企業は、クラウドプロバイダーが契約を再交渉する際に、より高いコストに直面することになります。

当社の研究部門である [Infosys Knowledge Institute](#) (IKI)による、「Cloud レーダー 2023 レポート」は、米国、英国、フランス、ドイツ、オーストラリア、ニュージーランド、北欧諸国の企業から 2,500 人以上にアンケートを実施しました。専門家やグローバルビジネスリーダーへのインタビューに基づき、このレポートではクラウドの新たな洗練度と複雑さ、およびそれに伴う管理上の課題を強調しています。

次に、特定された課題を紹介します。

- **クラウドの支出は高止まりしています：**今年、67%の企業がクラウドの支出を増やし、80%が来年も支出を増やす予定です。

- **利用率**：現在のクラウド契約のみ 47%が利用されており、3000 億ドル以上の企業のクラウド契約が未使用のままです。
- **コストが悩みの種**：およそ 50%の企業がクラウドコストを管理することに苦労しています。
- **クラウドベンダーの多様性**：回答者のほぼ 2/3（65%）が 3 つまたは 4 つのクラウドベンダーを使用しており、これは 2021 年に比べて 75%増加しています。過去 2 年間で、単一のクラウドプロバイダーを使用している企業の割合は、2021 年の 21%から 2023 年の 7%に減少しました。
- **企業はクラウドデプロイメントを管理できない**：43%の企業が、クラウドリソースを展開するために承認された部門または機能責任者に関する不明確な方針を報告しています。
- **クラウド決定のサイロ化**：ほぼ半数（45%）が、IT 部門だけまたはビジネスリーダーだけが、どのクラウドテクノロジーを展開するか、またはクラウドコンプライアンスをどのように管理するかを決定しています。
- **結論、クラウド化はまだ需要問題**：73%がクラウド移行が目的を達成すると同意しており、これがさらなるクラウド関心と投資を促進しています。

Cloud Radar 2023 レポートによると、クラウドの成功には 3 つの戦略があります：

- **モニタリングと予測のマスター** - クラウドの複雑さがジェネレーティブ AI、IoT などの技術の追加により増大するにつれて、ガバナンスとコストのためのガードレールを確立することが重要です。
- **ビジネスケースをクラウドに組み込む** - IT とビジネスの間で透明でアジャイルで協力的な関係を築くことは、責任を負い、RoI を向上させるのに役立ちます。
- **価値中心のクラウドオペレーティングモデルを採用する** - 更新されたオペレーティングモデルにより、チームは価値フローを追跡し、アライメントを作成し、測定可能な目標に関するエンゲージメントを促進できます。

インフォシスの Cobalt 担当 EVP アナンタ・アディヤは、「クラウドが進化し続ける中、組織が成長と変革のための戦略的な促進要因としてクラウドを統合することが不可欠です。複数のクラウドプロバイダーを活用することで、組織はリソースを最適化し、弾力性を向上させ、専門的な機能にアクセスできるようになり、効率が向上し、成長が加速します。Infosys が毎年発行する Cloud Radar 調査は、常に変化するクラウドサービスの景色を明らかにし、クラウドの採用ダイナミクスと投資を説明しています。レポートは、企業がクラウドの複雑さの進化に対処し、クラウドをより効果的に活用し管理するための適切な戦略を策定する必要性の増大を示しています。」と述べています。

全てのレポートをご覧になるには、[こちら](#)へ。
レポートに関する概要ビデオをご覧になる方は、[こちら](#)へ。

調査方法

当社は、米国、英国、フランス、ドイツ、オーストラリア、ニュージーランド、北欧の複数の業界から 2,500 人以上のビジネスエグゼクティブを対象に、匿名形式でオンライン調査を実施しました。またより質の高い洞察を得るために、リサーチは専門家やビジネスリーダーからもインタビューを行いました。

インフォシスについて

インフォシスは、次世代のデジタルサービスとコンサルティングの世界的リーダーです。30 万人以上の従業員が、人々や企業、コミュニティの可能性を最大限に引き出し、次の機会を創造するために活動しています。40 年以上にわたるグローバル企業のシステムと運営の管理経験を持ち、クラウドを活用したデジタルトランスフォーメーションに乗るクライアントを 50 以上の国で専門的にサポートしています。AI によるコアを提供し、アジャイルなデジタルを規模化してビジネスを強化し、常に学習し続けることで持続的な改善を推進するために、デジタルスキルや知識、アイデアをイノベーションエコシステムから転送します。私たちは、多様な才能が包括的な職場で繁栄する、適切に統治され、環境に配慮した組織であることに深い責任を感じています。

www.infosys.com を訪れて、Infosys (NSE, BSE, NYSE: INFY) があなたの企業が次に進むためにどのようにお手伝いできるかをご覧ください。

セーフハーバー条項

本リリースの記述は、当社の将来的な成長や財務予測、COVID-19 による従業員や顧客、利害関係者への影響の管理計画など、1995 年私募証券訴訟改革法の「セーフハーバー」条項に規定される「将来予想に関する記述」が含まれています。これらは、多くのリスクや不確定要素が介在しているため、実績と大きく異なる場合があります。このようなリスクと不確定要素には、COVID-19 に関連するリスクと不安定要素およびその拡散を抑制するための政府やその他の対策の効果、インドや米国その他諸国における経済の悪化や景気後退に関するリスク、政情や業況、経済情勢の変化、利益の変動、外国為替レートの変動、当社の成長管理能力、当社のコスト優位性に影響を与え得る要因を含む IT サービス分野における競争の激化、インドと米国での人件費高騰、高い技能を持つ専門的な人材を採用し維持する当社の能力、固定価格・固定時間による契約における時間や経費の超過、顧客の集中化、出入国制限、業界セグメントの集中化、国際業務を管理する当社の能力、当社の主力分野のテクノロジーに対する需要の低下、通信ネットワークの崩壊あるいはシステムの故障、企業買収を成功させる当社の能力、当社サービス契約に対する損害賠償責任、当社が戦略投資した企業の業績、政府援助の打ち切りまたは終了、政治不安および地域紛争、インド国外での増資・企業買収に対する法的制限、当社知的所有権の不正使用、この業界に影響を与える経済情勢、訴訟や政府による調査の結果などがありますが、これらに限定されません。当社の将来的な業績に影響すると思われるその他リスクの詳細については、2022 年会計年度（2023 年 3 月 31 日付）年次報告書（Form 20-F）を含め、米国証券取引委員会に提出された当社報告書に記載されています。これらの報告書は、www.sec.gov でご覧いただけます。インフォシスは、米国証券取引委員会や当社株主への報告書など、書面および口頭により将来の展望を適宜発表する場合がありますが、法律により義務付けられている場合を除き、当社が随時発表する将来の展望について更新する義務を負わないものとします。

お問い合わせ先：

インフォシス 東京オフィス

マーケティング本部長 安藤 jo_ando@infosys.com